データブック

虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

データブック

【Ｎコード】

Ｎ２６８７Ｔ

【作者名】

虎

【あらすじ】

長編シリーズの設定と裏話、企画も用意しております。

序幕

サトシ「え～～、マサラタウンの出身で未来のポケモンマスター・サトシです」

カスミ「ちょっとそれ無理じゃない？…と言いたいけど、もう確定情報じゃないかしら？」

タケシ「そうだよな、そしてサトシが少し、否かなり羨ましい！！（泣）」

アイリス「何でよ」

タケシ「だってだって、俺の周りは皆恋色だらけじゃないか！サトシとカスミ、ハルカとシュウ、ヒカリとシンジ、アイリスとシューティー、他にはデントとカベルネ、ノゾミとケンゴ、コトネとカズナリ、ジュンとウララ、そして…何だっげぼへぇ！」

ヒロシ「あの…タケシ？何て言おうとしたの？（黒笑）」

ナナコ「厭らしい言葉言うたら、シバくでぇ（黒笑）」

サトシ「それもそうだな、どの道タケシは振られてばっかりで、相手何ぞいねぇしな（真顔）」

ヒカリ・ジュン・ベル・ウララ（恐っ……）

デント（何ともバッドなテイスト…（汗））

シューティー「あのー……現在の展開上で言えば、遂にチャンピオンシップ編突入ですよね？」

デント「シューティーの言う通り、カントー・ホウエン・ジョウト・シンオウ・イッシュの強豪達がポケモンマスターと戦う。おおおおっ、活発的なテイストだぁぁぁぁ！！」

ハルカ「デントって何キャラ？」

シュウ「解らないね」

シンジ「強いて言えば、ウザキャラだろ？」

デント「う゛！」

カベルネ（解りやすっ、チョロいわね）

ジュン「ひゃっほぉぉぉぉぉぉ！！俺もチャンピオンシップ、楽しみだぜぇ！！」

サトシ「こっちにもウザキャラがいたな」

ジュン「…すいましぇん（泣）」↑痛い所を突かれた

パジェラ「おい、どうでも良いからよぉ。そろそろ課題に入るぞ」

ゲンタ「茶番は此処までにしておけ」

タケシ「出て来たぞ、この小説で敵から味方になった真面目過ぎる某漫画の風紀委員長似の男と、チンピラ風の某漫画（その２）の悪の軍団のＮｏ．６そっくりな顔つきの男が…」

パジェラ「あぁ！？誰がチンピラだってぇ！？」

ヒカリ「うわっ不良の顔だ」

アイリス「社会のクズね」

タケシ「子供達の悪い見本だな」

パジェラ「悪かったな悪い見本で！それから褐色のガキ、今クズっつったろ！？」

アイリス「本当の事でしょ（笑）」

パジェラ「チクショウ！益々タチ悪いこの女！」

ゲンタ「……次話から課題に入る」

デント「まさかの意外な人物がオチテイスティング！！」

先の展開

・チャンピオンシップ

サトシ「もうすぐでチャンピオンシップか…」

ヒカリ「五つの地方リーグのチャンピオンを含めたベスト８まで残った人達でバトルして、四皇とバトルして、ポケモンマスターとバトル…もう少しでこの小説も終わっちゃうのね」

デント「良く思い返せば、ダーク団との死闘やサトシが普通の人間じゃないと言う事、ポケモンリーグや四天王とチャンピオンとのバトル…もしかしたら７０話程かな？」

ゲンタ「…否、まだ終わりではない」

全員『え？』

ゲンタ「僅かながら次回作の伏線がある…メテオナイトの欠片…ライゲンを焼き殺した人物…そしてホウオウの血統…」

パジェラ「言われてみりゃあ確かに…まあそれは置いといて、チャンピオンシップのネタバレをちょっとだけ公開するぜ」

・恋の戦い

サトシ「……は？またこれ？」

ゲンタ「…これはジョウトのある女を意味を示しているぞ、お前関連のな」

サトシ「何故俺？」

ゲンタ「知るか」

タケシ（何となーく、読めたぞ…）

ハルカ（サトシったら罪な男かも♪）

シンジ（タラシめ…）

・ジュンの第3の切り札

サトシ「エンペルト…カイリュー…次はどういうポケモンを持っているんだ？」

ジュン「おい！お前絶対蔑んだ目で見てるだろ！？見てやがれ、皆を驚かす様なポケモンを———」

ノゾミ「ちょっと有り得ないね（笑）」

ヒカリ「…ぷっ」

ジュン「泣かす！お前等絶対泣かす！！（泣）」

・シンジVSシューティー

シューティー「君と僕がバトルする日が近い様だね」

シンジ「……」

シューティー「サトシとどう違うのか、その力見てみたいな」

シンジ「……」

シューティー「……ねぇ、無視しないでくれない？（泣）」

ケンジ「ねぇ……良く見ると…」

パジェラ「此奴…ポッチャマを連れた小娘見てやがる…しかも赤面して…気持ち悪っ」

シンジ「……（赤）」

シューティー「眼中に無いって訳かよっ！？」

・サトシＶＳシンジ、再び

サトシ「またお前と戦えると解ると、ワクワクしてくるぜ」

シンジ「そのつもりだ…俺にゴウカザルを帰した事、少し痛い目に合って貰う」

サトシ「後悔はしていない、本当の勝負はこれからだぜ」

シンジ「嗚呼」

カスミ「……／／／／／」

タケシ「サトシとデントはモテて俺は何故モテないんだ……そしてこの差は何なんだぁぁぁぁ！！」

ヒカリ「ふふっ、大人なサトシも格好いいなぁ／／／／」

ケンゴ「サトシは良くて…僕はどうでも良いんだ…チクショウ！！」

デント「うーん。サトシとシンジ君、二人の間には熱傷するテイストが感じられるねぇ」

ゲンタ「奴等は宿敵であると同時に友だ、その関係はこれからも続くのだろうな」

タケシ「（立ち直った）此処でお開きとしよう！失礼致しま～す！」

七夕デ～イズ♪（何

サトシ「……なーんか知らねぇ間にカップルになっているな、お前等」

タツキ「何だ、皮肉か？（笑）あんまり彼女との時間が取れねぇからって僻んでんのか？え？」

カスミ「ちょっ止めなさいよサトシ！！タツキちゃん、ごめんね。ウチのサトシが…」

シゲル「ウチのってカスミちゃん、まだ君達は婚約してないでしょ？（ニヤニヤ）」

カスミ「／／／／／」

サトシ「お前、わざと言っているだろ（怒）」

シゲル「ふふっそうでもないさ」

トウマ「お前はそろそろ良い女を見つけろ、お前が昔連れていた女子達から選抜して」

シゲル「もう良いよその話は…あの娘達とはもう縁を切っちゃったし…（泣）」

（タケシ、ハルカ、ヒカリ、アイリス、デント、ゲンタが入場）

デント「イッツ七夕ｔｉｍｅ！この僕、七夕ソムリエのデントが七

夕について説明しましょう！」

シ・タツ・ト「はぁ？」

デント「七夕とw」

ゲンタ「七夕とは、天帝の娘である織姫が彦星に嫁ぐ為、彼の元へ行ったのは良かったが、機織りを辞めた事に天帝がそれを許さず、彼女を河原に戻し、1年に1度しか会う事を許されぬと言う言い伝えが有る…7月7日は彼等を祈り、願い事を叶える事を許されたのが七夕と言う行事だ」

アイリス「すご…かなり頭が良いのね！」

デント「……あは、あはは（泣）」

タケシ「七夕ソムリエ、語る意味が無かったな」

ハルカ「ドンマイ♪」

ヒカリ「七夕かぁ、どんな事を書こうかなぁ？」

アイリス「確かこの短冊って言う紙に願い事を書き込むのよね？よーし、早速…」

ゲンタ「待て」

アイリス「書い…って急に何よ？」

ゲンタ「『サトシと結婚出来ます様に』と言うのは無しだぞ」

アイリス・ヒカリ「うっ／／／／」

タケシ（う…羨ましい…羨ましいぞサトシィ！！）

ゲンタ「（作者から渡されたカンペに目を通す）俺は来る前に課題を立てた…それは『自分の求める物』だ。」

全員「はぁ…」

ゲンタ「各自作業に取りかかるぞ、怠けていれば…排除する」

ヒカリ・アイリス（ひぃっ！！）（ゲンタの放つプレッシャーに怯んだ）

数分後

サトシ「で、出来た…！」

カスミ「私もよ！」

タケシ「俺もだ」

シゲル「僕もさ。タツキとトウマも出来たかい？」

タツキ「おうよ！」

トウマ「……」（コクリ）

デント「じゃあ、お互い見せ合おうか！」

以下は全員文の短冊

タケシ『お姉様達と素敵な思い出を作れます様に』

ヒカリ『トップコーディネーターの頂点、コンテストマスターになれます様に』

アイリス『私に相応しい人と結婚出来ます様に』

デント『自立して自分のレストランを請け負えます様に』

ハルカ『世界一美しい素敵な味のデザートと出会えます様に』

シゲル『ポケモン博士になれます様に』

トウマ『世界中の謎を全て解き明かし、世間に知らしめる』

タツキ『宇宙の果てまで走り続ける』

デント「……一つ聞きたいけど、アイリス、私に相応しい人って何？凄い上から目線に思えるのは僕だけだろうか？」

ハルカ「否、誰だって思うかも。何これ？自分より強い人の事を指しているの？」

アイリス「いっ良いじゃない！これしか思い浮かばなかったもん／／／」

ヒカリ「確かにそうだけど、ハルカも人の事言えないわよ？素敵な味のデザートってそう簡単に見つからないよ…（苦笑）」

ハルカ「でも長く生きていたら、見つかるかも知れないから強ち間違いじゃないでしょ？」

デント「うん、そうだね。それからタケシさんとタツキ君。君達のも残念なテイストが溢れ出しているよ！」

タツキ「何故？」

デント「タツキ君はどうやって宇宙まで進出するつもりかな！？現実に考えて今の技術では、バイクを宇宙に疾らせるのには無理がある。そしてタケシさん、何ですかこれ！？本当に後先考えない想像力ですね！」

タケシ「とほほ…（泣）」

ヒカリ「ゲンタさんは？」

ゲンタ「書いておらん。そもそも、俺がこんな物を書くと思うか？」

タツキ「本当に面倒くせぇなあんた！サトシから聞いた通りだよ！」

ゲンタ「…不良少女が」

タツキ「ウガーー！！」（飛びかかるも、シゲルとトウマに抑えられる）

カスミ「あの～～お取り込み中悪いんだけど、私の短冊見てくれる？」

アイリス「えっ！？う、うん！」

ヒカリ「カスミはどんな願い事を…！」

カスミ『好きな人と結婚し、幸せな家庭を築きたい』

ヒカリ「はっ！？え、ええ！？／／／／／」

アイリス「ちょっ、な、何これ！？／／／／／」

カスミ「これしか思い浮かばなかったもの、それに私にとって彼奴は最高のパートナーだし／／／／」（チラッとサトシを見る）

サトシ「良し、俺のも見てくれないか？」

デント「嗚呼、何だか楽しそうな感じがするしね」

ハルカ「ええ」

シゲル「君の事だから、ポケモンマスターって事じゃないかい？」

サトシ「違ェよ。ほら」（短冊を見せる）

全員「あ…！」

サトシ『争いの無い、人々が解り合う世界になります様に』

タケシ「嬉しい事を書いてくれるじゃないか、お前は」

サトシ「はは、どう致しまして」

カスミ「そう言う日々、何時か来ると良いわね」

サトシ「嗚呼、そろそろお開きだ。次回もポケモン、ゲットだぜ！」

ピカチュウ「ピッピカチュウ！」

第2期制作決定！！（前書き）

※ネタバレ注意

第2期制作決定！！

作者「する事にしました♪」

全員『えええええええええっ！！？？』

作者「やっぱり驚きます？」

サトシ「当たり前だ！！」

タケシ「急にそんな事を言われたら誰だって驚くだろ！？」

カスミ「ポケモンマスター編突入前に良いの！？こんなネタバレしちゃって！」

シゲル「良いんじゃないかな？ジンさんや四皇とのバトルと言う事も残っているし」

タツキ「アニメや漫画とかじゃあ当たり前じゃん？」

トウマ「……（コクリ）」

ケンジ「あの、良いの？明らかに場違いな僕がこんな場所にいても…（汗）」

作者「いや大丈夫、今期は君見せ場無かったけど、第2期ではある女の子と絡むよ？」

ケンジ「え！？／／／／」

タケシ「まさか、俺にも！？」

作者「それは無い」

タケシ「……（泣）」

タツキ「あんた、何気に酷ェな…（汗）」

トウマ「もう良いだろう」

作者「そうですね♪では、これが第2期のネタバレの文です」

・サトシ、国際警察に連行される！？

ケンジ「え！？サトシ、何か悪い事した！？」

サトシ「……まだ解らねぇのに疑うなよ」

カスミ「そうよケンジ！まだサトシが逮捕される原因が判明してないでしょ！？」

タケシ「…これは思い切った事だなぁ」

・敵は過剰なる正義の軍団

トウマ「何だこれは？正義にしては妙な悪意が感じるが…」

タツキ「まだ秘密なんだろ？気にしない気にしない♪」

・狙われる伝説のポケモン達

シゲル「え…？これは一体」

作者「ひ・み・つｖｖ」

シゲル「……（イラッ）」

・ゾーマ決死の戦い

サトシ「ゾーマさんが何で？」

カスミ「細かい事は置いといて！」

作者「此処でお開きにしま～す！」

続く

新地方への旅立ち

ジン「どーも、前ポケモンマスターのジンでーす（怒）」

作「やっと第1部完結！作者でーす……で、何で怒ってんの？」

ジャスティール「それはまあ」

ダスタン「死んだかどうか解らない状態で終わっちゃったからね…機嫌が悪くなるのも納得いくよ」

セリア「そうですわね、作者様。慰謝料として私が5億を」

ジルガ「オイ待てェ！どっかの助っ人漫画に出て来るお嬢様キャラの様な事をすんじゃねぇ！」

セリア「それは置いておきまして、新しいポケモンマスター様はまた旅に出るらしいですわよ」

作「えっ、何で知ってるんですか？」

セリア「グリンフィール財閥の情報網は世界一ですわｖｖ」

全員「怖…」

作「えーと、第2部の舞台はイッシュ地方と同じく海の向こうにある土地、ギリアス地方。イギリスをモチーフにした地方です。」

ジン「イギリスかぁ…ギリアス地方には当然、ジムやコンテスト、

リーグはあるんだろ？」

作「勿論ですとも、お楽しみ下さいね」

ジン「皆、第2部を楽しみにしておけよ？」

作（た、助かった…）

人気投票開始＋ネタバレ

サトシ「…人気投票か」

タケシ「良く考えてみれば、このシリーズが始まって1年が経とうとしているんだな」

カスミ「そうね。今でもジャッジメントと戦っているけど、人気投票も必要よね」

ゲンタ「期間は１０月３０日から１１月１１日まで、速やかとは言わん。アンケートを頼むぞ」

シゲル「僕達も項目に加わっているみたいだね」

タツキ「人気者って辛いねェ（笑）」

トウマ「…どうでも良い」

パジェラ「1年か…！ダーク団壊滅にセキエイリーグにチャンピオンリーグ、そしてチャンピオンシップ！色んな事があったもんだぜ！」

ミヤギ「おう！彼方に逝っちまったゾーマも喜ぶだろうよ！な？」

ゲンタ「…嗚呼」

サトシ「一周年記念の投票、皆頼んだぜ！？」

此処からネタバレ

サトシＶＳハタナ

ストンジムのジムリーダー、ハタナとのジム戦。ファマーと彼女のパートナー・ダンゴロウとの勝負の行方は！？

赤い目のオニゴーリ！？

山奥の小屋で一人で暮らす少年、テッペイ。彼は赤い目をしたオニゴーリをＧＥＴする為に山暮らしをしていた。

暴走ノコウテイ

一体のノコッチの進化系・ノコウテイが住む洞窟を訪れたサトシ達一行。そのノコウテイは余りにも凶暴であり、ケンジが彼の説得に駆り出される。

対決！ポッチャマＶＳググズリー

格闘部隊副隊長・“括り熊”のオメガの繰り出すググズリーにヒカリとポッチャマが挑む！

シュラの森の怪奇現象

シュラの森に住むチェキラ、そんなチェキラは途轍もないポケモンだった！？

以上、ネタバレでした。

結果発表

晴れて第1回人気投票第一位を取ったのは…我等が主人公、マサラタウンのサトシ！

サトシ「え？あ…ありがとう御座います！」

カスミ「やっるじゃないの！流石私の恋人(おとこ)ね！」

タケシ「…カスミ、堂々と宣言するのは止めてくれ（泣）」

ヒカリ「…何か気に入らない（怒）」

アイリス「奇遇ね、私も同じ気持ちよ（怒）」

ノゾミ「まあまあヒカリ、此処は譲って上げなよ」

デント「アイリスも拗ねない拗ねない」

ゲンタ「…下らん」

パジェラ「あァ、全くの阿呆だな」

次は１０〜７位までを紹介、１０位ユウタ、９位トウマ、８位タツキ、７位シゲル。

ユウタ「よっしゃー！」

トウマ「どういう事か知らんが、礼を言おう」

タツキ「あ～～ったく！少しは喜べよな！？」

シゲル「それが彼らしい言葉だけどね」

次は６～２位まで、ＤＰヒロイン“シンオウの妖精”ヒカリちゃん！サトシの最大の宿敵“悪魔の申し子”シンジ！サトシの（未来の）お嫁さん、初代ヒロインのカスミちゃん！敵キャラながら男性から人気を誇る美しい魔女“氷の姫君”ライザさん！そしてこのシリーズのもう一人の主人公を勤める“殺鬼”ゲンタさん！
ヒカリ「やったわ！ベスト１０に入った！」

カスミ「当然でしょ？」

シンジ「…／／／／」（ヒカリを見て顔を赤くしている）

ライザ「……」（ゲンタの顔を見て彼から顔を背ける）

ゲンタ「……何故顔を合わせない」

サトシ「ゲンタ、この人はお前と知り合いなのか？」

ゲンタ「黙れタラシ」

サトシ「タラシ！？」

ライザ「……許すつもりは無いわよ」

ゲンタ「そうか」

ライザ「貴方みたいな罪重ねる人間を、私は認めない。3位に選ばれて嬉しいなんて…」

ゲンタ「は…？」

ライザ「これっぽっちも思ってないからね！覚悟してなさい！！」

（ライザ退室）

デント「……Ｉｔ' ｓ　ｈａｐｐｅｎｉｎｇ　ｔｉｍｅ」

ヒカリ「…サトシもそうだけど」

カスミ「ゲンタも大差変わらないわね」（遠い目で二人を見る）

ゲンタ「ふざけるな、こんな男と同類とされては困るんだが」

サトシ「俺もだぜ？カスミ、訂正してくれよ（汗）」

その後サトシはカスミに懇願し続けるが、謝罪したのは1時間後の話である…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2687t/

データブック

2011年11月17日21時37分発行